

校内別室を拠点に行動範囲を広げる

不登校児童の状況

対象児童は、一昨年度から不登校が続いている。学習面への不安や集団生活への苦手意識があり、遅刻や欠席が多かったが、現在は校内別室へ登校したり、校内別室から教室へ行って給食を食べたりすることができるようになった。コミュニケーション能力の向上のために、週に2時間、特別支援教室で指導を受けることができた。

具体的な取組

○校内別室の活用

校内別室で校内別室指導支援員のサポートを受けながら、個別の課題に取り組んだり、塗り絵やお絵かきなど心を落ち着けるための活動に取り組んだりした。登校したら、支援員と共に在籍学級の一日の予定を確認し、自身が過ごす場所や時間、取り組む課題などの予定を立てた。

○学級担任と校内別室指導支援員の連携

支援員が当該児童の様子をエクセルシートに入力し、学級担任、養護教諭、管理職、SCなど、当該児童に関わる教職員が、校内別室での様子をいつでも把握することができるようにした。校内別室での様子について、担任から声をかけることで、よりよいコミュニケーションを図ることができるようにした。

○学級との関わりの維持

担任が週予定を渡し、興味のある学習に見通しをもって参加することができるように配慮した。配膳された給食を教室に取りに行ったり、状況によっては教室で友達と交流しながら給食を食べたりした。学級担任や友達との関わりを維持することで、安心感をもって登校できるようにした。

○特別支援教室での指導

コミュニケーション能力向上のために、週に1時間の個別指導を受けた。また、週に1時間は、小集団でのグループ活動にも参加した。

特別支援教室での指導を受けることで、集団生活への苦手意識による不安を解消することができるようにした。



成果

一昨年度は欠席が続いていたが、校内別室ができた昨年度からは校内別室への登校ができるようになった。今年度は教室での学習に参加したり、給食を食べたりすることができるようになり、友達や担任とのコミュニケーションがとれるようになった。

課題

学級との交流を継続しながら、学習への不安を解消することができるような支援方法を検討し、支援が途切れないようにしていく。